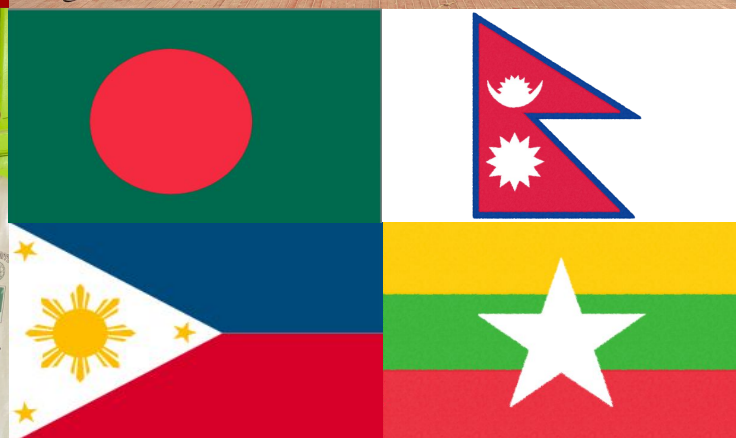


最高の教育を世界の果てまで



 e-Education

ANNUAL REPORT

2022

2022.04-2023.03



Mission

最高の教育を世界の果てまで

Best Education to Every Corner of the World

Vision

人生に誇りを、社会には思いやりを

A Life with Dignity, a Society with Compassion

代表メッセージ

「コロナはこの国を2つに分けた...」

これはバングラデシュの生徒から直接聞いた悲痛の声の一部ですが、2022年は世界の分断が加速した1年だったと感じています。

経済活動、教育活動が従来通りに戻っていく先進国に対して、途上国では1年を超える休校の影響を受けて、大幅な学びの遅れが解消されない状態が続いています。

バングラデシュでは生徒の進学を優先し、学校で学ぶ内容が大幅に削れました。他方で、大学入試の出題範囲や問題難易度は変わっておらず、志望大学に進学するには予備校へ通うことが実質必須となり、都市部と農村部で大きな分断が生じました。

このような厳しい状況下で、私たちがコロナ禍で始めた新事業「オンライン家庭教師事業」のニーズは急増しました。結果、2年連続で30人を超えるダッカ大学合格者が誕生し、前年度合格した生徒たちも家庭教師として参加してくれました。分断が進む一方で、思いやりによって分断を解消する教育モデルを生み出すことができ、ミャンマー・フィリピン・ネパールでも人と人の繋がりに着目した教育事業のアップデートに挑戦しています。

「コロナはこの国を2つに分けた...が、e-Educaitonのおかげで今まで以上にこの国は1つになりつつある」

冒頭で触れた生徒の声は、最後希望の言葉で締めくくられており、これこそ私たちの目指す道そのものです。ピンチをチャンスにできるよう、これからも挑戦し続けますので、ぜひ応援のほどよろしくお願いいたします。

認定NPO法人e-Education
代表
三輪 開人





バングラデシュ

■12年連続でダッカ大学合格者を輩出

教育施設の閉鎖措置が2022年には完全に解除され、対面での授業が再開しました。

しかし、都市部と農村部での教育格差は変わらず、農村部では大学受験を控えながら学校にも塾にも通えない高校生の現状がありました。コロナ禍に完全オンライン化させた大学受験支援プログラムの改善も日々行ない、その結果、支援地域は59県にまで拡大し、より多くの農村部の生徒に支援を届けることができるようになりました。

また大学受験支援プログラムの1つ「オンライン家庭教師」では、20名の大学生にコーチとしてアルバイトの機会を提供することができました。その中には、e-Educationの支援を受け大学生となった元生徒も多く、支援される側から支援する側として、後輩たちの挑戦と一緒に応援してくれていました。

2022年1月から187名の受験生に支援を届け、6月に実施された大学受験では、**34名の生徒がバングラデシュ最高学府のダッカ大学に合格し、延べ93名の生徒が難関国公立大学合格を果たしました。**ダッカ大学合格はこれで12年連続となります。



■Society Co-Creation Conferenceを開催

2016年7月1日、ダッカ・レストラン襲撃人質テロ事件によって日本人を含む多くの方が亡くなりました。当時1000人近い日本人がバングラデシュで働き、暮らしていましたが、その数は約1/3に減少し、バングラデシュに「危険」というイメージがついてしまいました。

「謝っても謝りきれない」と涙を流しながら謝罪したのは、e-Educationの元生徒たちでした。

日本の支援によって大学進学を果たした彼らは、他者を想いやることができる素晴らしいリーダーたちであり、**彼らと日本人を含む世界各国のリーダーたちを温かく繋ぎたい。**そんな思いから生まれた事業が、共創型カンファレンス“Society Co-Creation Conference”です。

日バ外交関係樹立50周年を迎えた2022年11月に開催したカンファレンスは大きく二部構成になっており、前半は日本とバングラデシュ、両国で活躍する素晴らしいリーダーたちによるパネルディスカッション、後半はバングラデシュの若手起業家・スタートアップによるピッチ（プレゼン大会）が開かれました。

どちらのセッションも「共創」をテーマにしており、両国どのように手を取り合うことができるのか、共創によってどんな未来が実現できるのか、参加者全員が真剣に議論し、考え合う希望ある場になりました。

～代表・三輪より～

カンファレンスには、日本人が40人近く、他海外参加者を含めて約350人が参加しました。

現在大学に通っている多くのe-Education元生徒たちも参加してくれました。

後半のピッチは特に盛り上がり、資金調達が加速したスタートアップもあれば、日本進出が決まった企業もあります。日々挑戦する彼らはe-Education元生徒たちの良きロールモデルであり、「彼らを超える起業家になりたい」と感想をもらったことが、一番印象的かつ大事にしたい成果になります。





フィリピン

貧困や早期妊娠など様々な理由から学校へ通えなくなった子どもたちが週末に通える学校「OHSP(オープンハイスクールプログラム)」の支援は、コロナ禍においては政府の意向により一時停止となっていました。2022年より部分的に再開しました。また、フィリピンの子どもたちは厳しい外出制限が課され、中学校や高校は1年半にもわたり完全休校となっていました。部分的に授業も再開しました。しかし学校に満足に通えていない子どもたちもまだまだ多くいました。そこで2021年から開始したオンライン高校受験支援「StudyCo(スタディコ)」を1人でも多くの子どもたちへ届けるため冬期募金キャンペーンを実施し、その結果、**2022年は30名に合計239回のオンライン家庭教師による授業を届けることができました**。中には最難関国立高校への受験に挑戦した生徒もあり、5名が第一志望合格を果たしました。またオンライン家庭教師は、コロナ禍でアルバイトができず学費が工面できないでいた大学生を採用しており、現地の雇用創出機会にもなっています。



ネパール

2022年、コロナ禍で休校していた学校も再開し、山岳部の学校への映像授業導入に向け、教育機関および教員との協議、機材・教材提供の準備を現地パートナーKids of Kathmanduとともに本格的に開始しました。その過程では、整備されていない道路や電気が通っていない教室もあり機材の運搬や環境の整備にも工夫が求められましたが、**モデル校6校へ機材を提供し映像授業を開始することができました**。また、教員向けに映像授業の活用場面や機材の利用方法について教える**指導力向上ワークショップ**を4市で2回開催し、**68名の教員が参加され、モデル校での有効活用につなげることができました**。さらに**日本での優良事例を学ぶ訪日研修も実施し**、ネパールから6名の教育関係者が参加しました。日本の学校や自治体との連携事例から学んで帰国後は各学校・各自治体での仕組みづくりに向けた議論を開始することができました。



ミャンマー

ミャンマーのクーデター後、国内の教育は二分化されました。政府主導の教育カリキュラムと、非政府主導の教育カリキュラムが存在し、高校卒業試験も2種類存在する特殊な状況が続いています。

私たちe-Educaitonは「誰一人取り残さない」ことに主眼を置き、あらゆる立場の生徒にとっても重要度の高い「英語」に絞った教育支援を続けています。「**生徒の未来の選択肢を増やす**」という理念のもと、国内外にいるミャンマーの若者に対して、オンラインで良質な学びを提供する体制を整え、大事な試験を控えた生徒向けに英語特化型の教育支援を実施しました。**2022年に教育支援を実施した生徒の中には、国内の高校卒業試験で高得点をマークした学生が生まれた他、海外大学院進学に必要なIELTSにおいて基準点を超える生徒も誕生し、確実な成果が生まれつつあります**。

2022 Voices

～動画でお届けします。QRコードを読み取りいただくか、URLから御覧ください～



2022年に再開したフィリピン、OHSPに通う子どもたちより

<https://youtu.be/6yynl6IM4bs>



Study Coの一期生で、最難関国立高校に合格し、2022年に南フィリピン科学技術大学附属高校に進学したクリスより

<https://youtu.be/ClxkciRYHkA>



エストと連携した「探求のあかりプロジェクト」が始動しました

2022年6月より、カウンセリング化粧品ブランドest（花王株式会社、以下エスト）と連携し、尽きない探求心と学びの心を応援する「探求のあかりプロジェクト」が始動しました。

【プロジェクト誕生背景】

エストの一人一人の無限の可能性を信じ、「探求すること」こそ、未来を切り開くことに繋がるという価値観や取り組みは、e-Educationの子どもの可能性を信じ、「最高の教育」を届けることで明るい未来を切り拓くという活動とも通じ、お互いの活動・理念に共感したエストとe-Educationは、連携して教育格差をなくすための継続的な取り組みをスタートさせるに至りました。

【2022年度実績】

エストの全商品の売上から総額260万円の寄付をいただき、e-Educationが行うバングラデシュの農村部に住む高校生たちに対する大学受験支援や、コロナ禍で学校へ通うことができないフィリピンの子どもたちに向けた高校受験支援の活動に充てさせていただきました。



【エストについて】

est

True to you.

エビデンスベースのプロダクトと、パーソナルなカウンセリングで肌と真摯に向き合い、ひとりひとりの中に眠る美の原石を惹き出し、ともに磨くカウンセリング化粧品ブランド。
エストのブランドサイト▶<https://www.sofina.co.jp/est/>



est マーケティングご担当

吉安 可那子さまの「探求のあかりプロジェクト」への想い

「探求のあかりプロジェクト」という名前は、代表理事の三輪さんがバングラデシュの貧しい農村の街灯の下で教科書を読む子どもに出会ったエピソードに着想を得ています。環境のせいで学習機会が奪われてしまっている若者の学びを照らす「あかり」のような存在になりたいという想いを込めて、このプロジェクトを立ち上げました。活動の中で「塾代と1年間の家庭収入が同じ」「年間数万の学費が払えず学校を退学してしまう」という途上国の現状を知りましたが、社内外含め、まだまだ認知が足りていないと感じています。寄付や奨学金などの具体的な支援はもちろんのこと、途上国の現状や身近に支援できる活動があることを広めるのも、私たち企業側の役割なのではないかと感じています。世界の果てまで「あかり」が灯せるように、これからもe-Education様と取り組みを進化させていきたいと思っています。

<これまでにご支援・協働いただいている法人さま>
※一部掲載



公益財団法人 日本国際協力財団



助成：国際交流基金アジアセンター
アジア・市民交流助成



みてね 基金



活動計算書

経常収益	
受取寄付金	31,574,282円
受取助成金	8,000,000円
事業収益	36,402,632円
その他	240,549円
合計	76,217,463円

経常費用	
事業費	116,921,941円
人件費	33,725,855円
その他経費	83,196,086円
管理費	18,514,955円
人件費	10,238,856円
その他経費	8,276,099円
合計	135,436,896円

税引前当期正味財産増減額

-59,219,433円

法人税、住民税及び事業税

70,000円

当期正味財産増減額

-59,289,433円

前期繰越正味財産額

-13,381,988円

次期繰越正味財産額

-72,671,421円

ご支援の方法

01 マンスリーサポーターになる

毎月3,000円のご寄付があれば、映像授業とオンライン家庭教師による教育支援を届けることができます。教育環境に恵まれず、夢を諦めざるを得ない子どもたちの夢を応援する仲間になってください。



02 今回のみご寄付をする

ご都合の良い時に、ご自由な金額でご寄付いただけます。法人としてのご寄付もこちらからお申し込みいただけます。



e-Educationへのご寄付は寄付控除の対象となります

〒101-0031

東京都千代田区東神田1-2-8 赤塚ビル2階

E-Mail : info@eedu.jp HP : <https://eedu.jp>

